

報告者：

薬科学科 4 回生 製剤学研究室 米倉千紘

【1 日目】

ルース・マリー・ジャーマン氏による講演

ルース氏はハワイのご出身であり、大学卒業後日本で就職された。当時日本における外国人就業者の割合は低く、言語や文化の違いなど多くの壁を感じながらも現在まで日本で活躍されている。

彼女の講演で最も印象に残ったのは、言語圏の異なる人と会話をする上で重要なことは誤解を解くことである、という話だ。例えば英語圏の人と会話をする場合、問題なのはこちらの英語力ではない。いかに認識を共通のものにするかである。有名なイチロー選手の話为例に説明されていたが、彼はある野球の試合で逆転ホームランを決めた際、静かにバットを置いて喜ぶ素振りを見せなかった。それを見たアメリカ人は「どうして喜ばないんだ」と不思議に思ったそうだ。アメリカ人ならガッツポーズしながら走るのに、イチロー選手はなぜ嬉しくないのか、と驚いたようだ。日本人であれば、イチロー選手は相手の気持ちに配慮し、ピッチャーを尊敬するが故に過剰に喜ばなかったのだと解釈できるのだが、アメリカ人には思いつかなかったのである。このことを聞いたアメリカ人は非常に感動したらしい。この話から分かることは、異文化で育った人とコミュニケーションをとるとき、考え方の違いによる誤解が生じていることがよくある、ということだ。この誤解が正確な意思の疎通において障害となっているのだ。私たちはますますグローバル化していく社会を担う立場にある。当然外国人と接する機会はこれから増えていくだろう。そんな中、もちろん語学力も重要なスキルとなるのだが、それ以上に日本人が暗黙の了解としていることを一つずつ明確に伝える努力が必要となってくるのではないかと改めて考えさせられた。これまで私は、自分の語学力に自信がなく、伝わらないだろうとコミュニケーション自体を諦めていたように思う。しかし、今回の講演を聴き、勇気を出して一步踏み出し、いろんな国の人と接してみようと思った。

パネルディスカッション「先輩の声を聞く」

ここでは、4 人の社会の先輩方の話をお聞きした。みなさんがそれぞれの分野でご活躍されており、非常に有意義なお話を聞くことができた。

まず、「学生時代に描いていた自分と今」という題では、みなさん共通して想像していたものとは違った、とおっしゃっていた。その中には、何がしたいか分からないまま就職された人、やりたい職には就けなかった人などそれぞれであったが、流れに身を任せること、

そして人とどういふところで違ふを持つのか、ということが大切であると言われていた。私も特に研究室に入つて「自分にしかない他の人とは違ふことは何だろう」と考えることがよくあつた。考えれば考える程自分には何もないのではないかと悩むことも多々あるが、来年には就職活動も控えており、そろそろ自分をみつめる時期であると改めて感じた。この一年、研究室に入ったばかりでただ毎日なんとなく実験をしていたが、次の一年はしっかりと自分を見つめ直しながらか過ごしていきたいと思う。

次に「仕事の上で苦勞したこと、乗り越えたこと」という題では、仕事と子育ての両立に悩みながら頑張つてきた母としての社会での生き方について学ばせていただいた。ここで重要なことは、タイムマネジメントであつた。すなわち、一日の中で何が重要なのかという優先順位をつけるということだ。そして、周りを頼ることもとても大切であり、夫選りも重要であると教えていただいた。

最後に質疑応答があり、私は学生時代にやっておくべきことについて質問をした。みなさんがおっしゃつていたのは、まずアルバイトをすることだつた。会社に入ると仕事は教えてくれるが、挨拶や礼儀などの教養は教えてくれない。そこは社会にでる前に身につけておくべきであるし、そういう人材が必要とされているようだ。また、留学に行くこともおすすめされた。今後日本には、ますます多くの外国人が訪れることが予想されている。そんな中、自分の中の意識も変えていく必要がある。そのための第一歩として、自ら外の世界を見に行くことは必ずプラスになるだろうということだつた。私も元々留学には少し興味があつたので、今後考えてみようと思つた。

【2日目】

グループワーク

ここでは、少人数のグループに分かれて、それぞれ自分について見つめ直し、また周りからの意見も聞いてみるということを行つた。まず自分の弱みについて書き出してみたが、私は八方美人であることを挙げた。私はこれまで自分の誰にでも良い顔をする性格が良くないと思ひながらも、嫌われたくないという潜在意識から八方美人のような振る舞いをしていたように思ふ。この性格を変えたいと思ひながら過ごしてきたが、これを受けて同じグループの人から「八方美人ということは、裏を返せば周りの意見を受け入れられるということであり、協調性があるということではないか」と言つてもらつた。私は「そういう視点もあるのか」と非常に感動したのを覚えている。自分にとっては短所だと思つていた所も裏を返せば長所になりうるのだとわかり、自信に繋がつた。

【2日間を終えて】

この2日間で、私は自分に少し自信を持つことができた。自分のことを一番分かっていたのは自分自身だったのだと痛感した。自分を見つめ直す良いきっかけになったと思う。これから就職活動が控えているが、日々自分には何ができるのか、他と違う自分の良いところはどこなのかを探していきたいと思う。また、何か新しいことに挑戦しようと思ったとき、前例がないからと諦めていたことが多々あったが、むしろ自分が前例になるという気持ちで何事にも積極的に挑戦しようと思う。

最後に、2日間を通して国立女性教育会館の職員の方々をはじめ、本セミナーに携わってくださった全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。